

令和7年度 学校経営方針

教 育 目 標

江戸川区教育委員会
平成28年1月26日決定

こころ豊かに たくましく 教育の江戸川区

江戸川区教育委員会は、人権尊重の精神を基調として、未来を担う子どもたちが、「生きる力」の源である「知・徳・体」の力を身に付け、国際社会、地域社会の各界に貢献できる人間として心身ともに健やかに成長することを願い、

- 自他を尊重し、人間性豊かな道徳心のある人
- 自ら学び実践し、共に教え合い、育ち合う、創造力と協調性豊かな人
- 将来の夢をもち、個性豊かに、持てる力を発揮して、進んで社会に貢献できる人

を育てる教育を推進します。

また、学習環境の整備・充実を図るとともに、家庭・学校・地域社会の緊密な連携のもとで、すべての区民が子どもたちの健全育成に参加することを目指します。

さらに、かけがえのない江戸川区の伝統文化の普及振興と保存に努め、次世代に確実に継承していきます。

令和 7 年 4 月 1 日

江戸川区立南小岩小学校

校 長 吉 田 友 信

1 はじめに

令和7年度は、新校舎（令和5年度）に続き、新しい校庭（令和6年度）に係る一連の改築工事が終了し、本校の改築コンセプト等を活かした教育活動が求められている。多くの人々の思いや願いがこもった環境設備にて充実した教育活動を展開していく。

- (1) 本校は、昭和14年の開校以来、本年度で86周年を迎える。これまで、教職員と保護者、地域がともに力を合わせ、新たな校風と素晴らしい教育環境を築き上げてきた。この歴史を大切にして、南小岩小学校の教職員であることを誇りとし、保護者や地域の皆様と共に、最善を尽くしていく。
- (2) 本校の歴史と伝統、校風を受け継いでいくとともに、我々教職員が、児童・学校・地域を愛する心をもって職務にあたることで、さらに地域に根ざし、地域に開かれ、地域の誇りとなる学校へと発展させるべく歴史を積み重ねていく。
- (3) これからの社会を切り拓いていく本校児童には、次の資質・能力が求められる。
 - ① 文章の意味を正確に理解する読解力
 - ② 見方・考え方を働かせて自分で考えて表現する力
 - ③ 対話や協働を通じてアイデアを共有し、新たな解を生み出す力
- (4) 児童がよりよく生きていくために、時代を越えて大切にしたいこととして、「生命を尊重する心」「思いやりの心」「友情・信頼」「個性の伸長」「豊かな人間性」「規範意識」「正義と公平さを重んじる心」「自律性や責任を自覚すること」「自然を愛する心」「コミュニケーションを通して人間関係を育むこと」などがある。児童の自己肯定感や自己有用感の高揚につなげる。
- (5) 持続可能な開発目標（SDGs）などを踏まえ、「誰一人取り残さない教育」の目標達成のために、私たち教職員に必要なことは、具体的な児童の変容の姿として結果を示し、教育者として優れた指導力と人間的魅力を身に付けることである。責務を自覚し、共通理解と共通実践に努め、組織全体で取り組み、教育の成果を収める。

2 目指す学校像：共育環境の創造

学校・家庭・地域が共に補い合い、三位一体で児童を共育する南小岩小

- (1) 深い教育的愛情をもち、組織で児童の本気を引き出し、自己実現を図る教職員
- (2) わが子だけでなく、他の子も一緒に育てるという意識で一致協力する保護者
- (3) 児童・保護者・教職員を温かく見守り、非常災害時等に力強く守ろうとする地域

3 学校教育目標（目指す子ども像）：児童が自己実現を図るために定着させたい力

すべての児童が、一つでも多くの自己実現を果たそうとする南小岩小

- (1) よく考える子 ⇒ 確かな学力（学力向上）：基礎基本の定着、家庭との連携
- (2) 思いやりのある子 ⇒ 豊かな心（心力向上）：想像力・共感性、学校家庭の連携
- (3) たくましい子 ⇒ 健やかな体（体力向上）：心と身体のバランスある健康状態

4 目指す教職員像：児童の自己実現を支えるための教職員の力点

(1) 学力向上：「授業で勝負する教職員」

教職員自らが、研究・研修に励み、指導力向上を図る。常に児童や他の教職員から多くを学び続ける教職員でありたい。

(2) 心力向上：「待つ、聴く、受け止める教職員」

教職員が表面的な言動で判断せず、児童の心の声を聴くようにする。常に児童理解に努め、一人一人のよさや可能性を信じて伸ばす教職員でありたい。

(3) 体力向上：「心身ともに健康な教職員」

教職員が明るく元気に生き生きと輝きながら、日々の教育活動に取り組む必要がある。毎日の授業や学校行事に持ち味を発揮して意欲的に取り組む教職員でありたい。

5 学校経営方針の具現化のための

(1) 確かな学力の定着と一人一人のよさを生かす教育

① 主体的・対話的で深い学びのある授業 10分×○学年+10分=家庭学習時間
～子どもたちの自己有用感を高め、充実感や達成感を育むために～

- ・問題解決的な学習や体験的学習の充実
- ・話す・書く・振り返る活動といった言語活動の充実
- ・UD（ユニバーサルデザイン）の視点に立った授業
- ・学習用タブレット、ミライシードなどの ICT 機器の活用 ◎反復機能の活用
- 多様な学びのある授業 ～子どもたちの興味・関心を高め、能力に応じた学習～
- ・中学年以上は、教科担任制により学年全体で指導・評価
- ・第1学年からの習熟度別学習集団による指導（算数）
- ・子どもたち同士の多様な触れ合いができる場の保障
- ・学校図書館司書の効果的な活用、学校図書館との連携した並行読書の取組、子ども新聞を活用した授業等、読書科を推進することで、探究的な学習を実践

② すべての児童の可能性を最大限に伸ばす授業

- ・学校独自の学力調査、漢字検定、「Hyper Q-U」の取組等のデータに基づいた、学年や学級、一人一人の目標設定
- ・新校舎改築のコンセプトを活かした新しいスペースを活用した学習の工夫

(2) 豊かな心と社会性を育む教育

①人権尊重の精神を基盤とした肯定的な学級風土の確立

- ・人権教育や動植物の育成、「道徳」「音楽」「図画工作」をはじめとした心の教育
- ・みんなで守る生活指導
- ・共生社会をみんなでつくっていく基盤としての学級集団

②楽しい学校生活と好ましい人間関係の構築

- ・学級が、子どもたちにとって心の居場所であり、自分を表現できる場
- ・異年齢集団（縦割り班）での取組、「全校遠足」の取組
- ・委員会やクラブ活動における自主的・実践的な態度の育成

③インクルーシブ教育の構築に向けた特別支援教育の充実

- ・障害者差別解消法の趣旨を踏まえ、みつばち学級と交流学級との交流及び共同学習
- ・特別な支援を必要とする子どもたちへの十分な支援と合理的な配慮

(3) 健やかな体、健康増進・体力向上を育む教育

- ・運動の日常化を意識した運動遊び（校庭・屋内運動場・みんなの広場）
- ・ボランティアマインドや、国際人としての自覚をもつ学校 2020 レガシー教育
- ・世界文化遺産である和食を中心とした郷土食や日本の和食文化などの食育の充実
- ・歯磨き・フッ化物洗口の継続 ※健康寿命延ばすため

(4) 保護者・地域に開かれた教育

①保護者・地域からの親しみと信頼を得る

- ・QR コードやマークシート等、アンケート調査による保護者・地域の声を生かした教育活動
- ・学校の方針や教育内容、子どもたちの状況を積極的に広報するために、経営支援部による毎月の学校だより・学年だより・学級だより、HP の更新
- ・個人面談や授業参観・土曜授業公開などの実施

②地域行事への参加や、地域教材の開発

- ・地域素材及び GT（ゲスト・ティーチャーの位置付け）を活用した体験的な授業
- ・学校公開、学校行事の参観等により、学校評議員や学校応援団の皆様に学校運営にかかわる評価
- ・PTA や学校応援団、町会やおやじの会等と連携した栽培活動や地域学習など教育活動の充実
- ・小岩図書館と連携した読書活動
- ・地域の安全への取組
- ・休業日中に行われる事業についても、担当者を決め事業実施に協力